『自分の発見 & 他人の理解』 ~ 誰かの役に立つ ~

2024年2月11日(日)午前中 KBF(Kurume Bible Fellowship)で、お逢いした方が、【教文館で、樋野先生の新刊を見ました】と話された。 先日も【昨日銀座の教文館に寄りましたら、樋野先生の『なぜ、こんな目に あわなければ ならないのか』が平積みにしてありましたので、購入しました。 読ませていただきます。】との励ましの連絡を頂いたものである。 涙無くして語れない。

現代は【一、金を愛する者、一、不遜な者、一 感謝することを知らない、一、情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者一」(テモテへの手紙第 2: 第 3 章 2 節 -4 節)が増加しているのであろうか? 『がん病理学者が読む 聖書「ヨブ記」: なぜ、こんな目に あわなければ ならないのか』(2023 年 10 月 15 日; いのちのことば社発行)が、お役に立てば幸いである。

2月7日の『聖母訪問会 三浦修道院』での、スタッフ 9名との昼食と懇談の時の多数の写真が、『がん哲学外来 メデイカル in 三浦海岸』企画担当者:西田靖子シスターから送られて来た(画像)。 大いに感動した。 写真は、【東チモールから来日されている『カルメリンダ』】様(写真の右隣)が撮って頂いたものである。 『人生の良き思い出』となった。 今年(2024年)10月26日の【『がん哲学外来 メデイカル in 三浦海岸』5周年記念市民公開シンポジウム】での、皆様との再会が楽しみである。

2月11日午後、息子夫妻(めんどぐさがる サル & ナイチンゲール)が来訪し、wife(Penguin:ペンギン)がケーキ作りを教えた(画像)。『樋野動物園』は2019年10月13日開設され、筆者は、『樋野動物園』園長として、2020年10月13日発行の『樋野動物園1周年記念誌』(画像)で、『役割意識と使命感 ~ 「新しい自分の発見 & 他人の理解が深まる」 ~ 』のタイトルで寄稿の機会が与えられたものである。【『樋野動物園』の使命・役割は、『ただ、横にいるだけでいい。 必ず誰かの役に立っている。』】の実例であることが、今回のケーキ作りで、鮮明に蘇って来た。

















「樋野動**物**園」1周年記念誌 個性と多様性

「樋野動物園」出版局